

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	中重度障害者のための「地域のセーフティネット」の役割を担いながら、福祉的就労により充実感が得られることをめざしています。
	内容	本事業所は、重度の知的障害などで介助が難しい方であっても、利用希望があれば原則断らない、受け入れていくという「地域のセーフティネット」としての役割を担う施設です。しかも、生活介護事業所であっても、レーション中心ではなく、働くことを通じて利用者が生活に充実感を得ることをめざしています。また、毎日、全利用者が入浴し、家族介助者の負担が大きく軽減されているほか、15時以降の夕方支援、夜間まで含めた緊急一時支援も介助者の大きな安心につながっています。
2	タイトル	できること・得意なことを尊重し、その能力を伸ばすきめ細かな支援により利用者が自主的に作業活動に参加しています
	内容	事業所では利用者一人ひとりの得意なことを見極めて、作業内容の幅を広げています。パソコンが得意な利用者は他事業所の事務処理を手伝ったり、折り紙が得意な利用者の作品の商品化などにも取り組もうとしています。また、資源回収のペットボトルは洗浄⇒つぶすといった工程がありますがその際にも、利用者が集中できるように不穏な状態をつくらないよう支援する、車いすを使用してボトルをつぶす作業ができるよう見守るといった、職員の目配り・気配りが利用者の作業活動に対する意欲を高めています。
3	タイトル	意思を伝えられない利用者に対し、職員が一人ひとりに向き合い、意思を理解しようと努め、チームで最適な支援方法をめざしています
	内容	事業所には、意思を思い通りに伝えられない利用者が通所しています。言葉で伝えることが十分にできない難しい状況下で、職員は利用者一人ひとりに向き合い、手をつなぐ、見つめる、呼びかける、寄り添うといった多様なコミュニケーションの方法で、意思を理解しようと努め、日々のミーティング等を通じて振り返りを行うとともに情報共有を図り、チームで最適な支援方法をめざすことで、利用者が助け合いながら主体的に働き、楽しく充実感を持って過ごせる日中活動の場が実現しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	風通しの良い関係性を活かし、現場だけではなく、事業所運営に関する声も職員から挙がる職場環境づくりが期待されます
	内容	月1回の職員会議や、法人全体で行われる2か月に1回の会議出席は、勤務時間内の開催ということもあり、多くの職員が参加しています。また、色々な情報共有は、ミーティングでの話し合いを含め積極的に行われています。会議での発言や提案は、活発に行われており、風通しの良い職場環境にあります。しかし、事業計画書等についての立案を含め意見を言う職員が少ないようです。事業計画に意見を提案することにより、職員も、法人や施設運営の参画者としての意識・認識も高まり、法人への帰属意識の一つにも繋がるものと考えます。
2	タイトル	常時医療的ケアが必要な障害者の受け入れ体制を確立していくことが期待されます
	内容	小平市やその周辺地域においても、医療的ケアが必要な在宅の障害児・者の日中活動系サービスのニーズが高まっています。本事業所は、看護師を配置する生活介護事業所であり、医療的ケアの経験も有していますが、26年11月開設の新しい事業所であり、重症心身障害児・者など常時医療的ケアが必要な利用者を受け入れた経験はありません。今後は地域のセーフティネットの機能を高めていくためにも、職員の医療に関する知識・技術の向上を図り、受け入れ体制を確立していくことが期待されます。
3	タイトル	作成したマニュアルをベースに改訂の基準を明確にし、業務の標準化への一層の取り組みが期待されます
	内容	災害時の業務管理、緊急時などの運営に関するマニュアルは整備されています。事業所では、利用者一人ひとりの支援方法についてのマニュアルの策定にも現在取り組み、かなり進んでいます。しかし、利用者の状況は日々変化するために改訂に追いついていないのが現状のようです。現時点では支援マニュアルのベースはありますので、変化があったことはメモ程度でも必ず記録に残し、定期的にその情報が現時点で必要なものかを見極めマニュアルに落とし込む情報を整理し、これまでに作り上げた支援マニュアルを活かすしくみづくりに期待されます。